短歌集「一握の砂」に反映される石川啄木の実生活

(エクスプレシーブ･アプローチを通して)

ロサ　レスタリ

0342043

マラナタ　キリスト教　大学

文学部日本語学科

バンドン

2007

序論

一般に文学作品は詩･散文･劇曲の三つの種類に分けられる。日本には、古典的な詩、和歌というものがあり、その内に短歌というものがある。短歌は５－７－５－７－７拍の形を採り、合計３１拍からなる短かい詩である。

『一握の砂』は５５１の短歌からなる、１９１０年１２月に発行されに石川啄木の短歌集である。これには、石川啄木の実生活に深く関わった事柄が多く含まれるという。

本論は、『一握の砂』を通し、石川啄木が人生を歩むにおいて、いかなる経験をしてきたか分折するものである。分折にあたってはエクスプレシーブ･アプローチという理論を使うことにする。

本論

石川啄木は１８８６年２月２０日に岩手県ヒノト村で、石川はじめと言う名で生まれた。四人兄弟の三番目の子である。彼は、渋民という村で育てられていた。生まれたときから、彼は体が弱いため、過保護に育てられてきた。そのた

め、彼は、甘えん坊、いたずら子、エゴイストな子になっていったのである。1891年に、彼は、小学校に入り、読書が好きなため、頭の良い子になって、神童と言われるようになったのである。1898年4月、渋民から10キロ離れた森岡市にある中学校に入った。中学校にいる頃、彼は、文学、特に短歌に興味を惹かれたのである。これが、彼を詩人に成らしめたのである。詩を書くことによって、家廷を養おうという夢を特つようになったが、達成できなかったのである。彼は、より良い生活を築くために転々と町から町へと移ったが、生活の貧困から逃かれることはできなかったのである。

以下に石川啄木の生活を反映するいくつかの短歌を取り上げ分析する。

- 石川の郷愁

かにかくに渋民村は恋しかり
思いでの山
思いでの川

町から町へと転とと移った石川は、常に自分が大きくなった渋民という特を思いおこしているのである。

- 昔への思い

知らぬ家たたき起して
遁げ来るがおもしろかりし
昔の恋しさ

彼は、昔,友だちと遊んでいたずらを働いたことを思いおこしてい る。この短歌は、自分がいかにわんぱく坊主であったことかを描い ているのである。また、小学校·中学校にいたときのことを描いて いるものもある。

教室の窓より逃げて
ただ一人
かの城址に寝に行きしかな

また、自分の恋愛関係を描いているものもある。

わが恋を
はじめて友にうち明けし夜のことなど
思ひ出づる日

彼は、後に自分の書になった節子、そして別の女性小奴との恋愛関係を思い出しているのである。

- 貧困及び苦悩

自分の人生、家廷を養なうため、彼はしばしば旅に出るが、常に貧しさに遭い、苦しさに悩まされたのである。それを描写する短歌の一つに次のようなものがある。

かなしきは
喉のかわきをこらへつつ
夜寒の夜具ちぢこまる時

- 寂しさ

旅に出て、家族や親しい友人と離れることは寂しさを募らすのである。心を打ち明ける人がいないため、彼は寂しさを味うことがたびたびあるのである。

何がなし
さびしくなれば出てあるく男となりて
三月にもなれり

- 子を失う

1910 年秋、彼は長男を亡くしたのである。彼は、そのために悲しみに打ちひしがれてしまったのである。

おそ秋の空気を
三尺四方ばかり

吸ひてわが児の死にゆきしかな

結論

上述のように「一握の砂」は、石川啄木の実生活に生じたさまざまなことを描いているのである。「一握の砂」は石川啄木の人生を歩むにおけるさまざまな思い出、悲しみ、苦しみ等を描いていることがわかるのである。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR i

DAFTAR ISI …… iv

BAB I PENDAHULUAN

1.1 Latar Belakang masalah …….. 1

1.2 Pembatasan Masalah …… 5

1.3 Tujuan Penelitian ……. 5

1.4 Metodologi ……... 6

1.5 Organisasi Penelitian …… 7

BAB II TANKA DAN RIWAYAT HIDUP PENYAIR

2.1 Pengertian Tanka …….. 9

2.2 Riwayat Hidup Ishikawa Takuboku ……..... 13

2.2.1 Masa Kecil 13

2.2.2 Masa Sekolah..... 14

2.2.3 Masa Perantauan 16

BAB III ANALISIS

3.1 Kerinduan Akan Kampung Halaman 24

3.2 Kenangan Masa Silam 34

3.2.1 Kenangan Masa Kecil 35

3.2.2 Kenangan Masa Sekolah 38

3.2.3 Kenangan Asmara 41

3.3 Kemiskinan dan Penderitaan 46

3.4 Kesepian Hati 63

3.5 Kelahiran dan Kehilangan Anak 66

BAB IV KESIMPULAN 71

DAFTAR PUSTAKA

SINOPSIS

LAMPIRAN

RIWAYAT HIDUP PENULIS